

1号機

・1号機SFPについては、2月1日午後3時10分にSFP循環冷却の一次系の冷却を停止。冷却停止時のSFP水温度は25.4。3月12日午後5時まで冷却を停止予定。SFP循環冷却一次系のポンプは2台(A、B)あり、ポンプAは点検を行い、ポンプBについてはポンプAの点検を行う際の作業安全確保の観点から停止状態とする。1月31日午前10時現在のSFP水温度は、26.3であり、放熱を考慮した停止期間終了時点で約23.5と評価。

2号機

・2号機使用済燃料プール(以下、「SFP」という。)については、使用済燃料プール冷却浄化系(以下、「FPC系」という。)にて冷却しているが、2号機SFP循環冷却設備の信頼度向上対策工事において、同設備の二次系に近接する作業があるため、安全確保の観点から、1月16日午前6時33分に一次系の運転を継続した状態で、二次系を停止(1月22日まで停止予定)。停止時のSFP水温度は29.2。
・作業実績(1月16日午前6時33分～1月20日午後0時19分)。起動後のSFP水温度は31.9。
・2号機使用済燃料プール(以下、「SFP」という。)循環冷却系については、2号機SFP循環冷却設備信頼度向上対策工事において、SFP循環冷却設備一次系に近接する作業を実施することから、安全確保のため1月29日午前6時12分SFP循環冷却系一次系、午前6時32分SFP循環冷却系二次系を停止し、冷却を停止。冷却停止時のSFP水温度は28.3。
その後、予定作業が終了したことから、2月2日午後3時25分にSFP循環冷却系の二次系を起動し、2月3日午後2時15分にSFP循環冷却系の一次系を起動。運転状態については、異常のないことを確認。起動後のSFP水温度は、31.5(停止時28.3)。

3号機

・3号機SFP循環冷却系については、長期点検計画に基づき、SFP循環冷却設備の弁点検および配管の塗装を行うため、1月31日午前5時36分からSFP循環冷却系一次系を停止。冷却停止時のSFP水温度は27.1。2月8日午後4時(約203時間)まで当該設備を停止予定。冷却停止中のSFP水温度上昇は約17.7と評価(温度上昇率:約0.087/h)。
1月30日午前10時現在のSFP水温度は、27.4。

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

・5号機SFPについては、RHR系非常時熱負荷モードにて冷却しているが、RHR A系の計装品点検後の確認運転のため、SFP冷却停止を伴う作業を行う。

スケジュールおよび実績は以下の通り。

1月19日午前9時58分～午後1時50分

・RHR系非常時熱負荷モードによるSFP冷却停止

・起動後のSFP水温度17.4(停止時17.0)

6号機

・6号機SFPについては、FPC系にて冷却しているが、以下の通り、SFP冷却停止を伴う作業を行う。

FPC系を冷却している補助海水系の機器点検を行う(1月17日～2月2日)ため、SFP冷却をFPC系から残留熱除去系(以下「RHR系」という。)による冷却へ切り替えを行い、補助海水系の機器点検後は、SFP冷却をRHR系よりFPC系による冷却に戻す。

SFP冷却中のRHR系の機器点検を行う(1月22日)ため、RHRを停止する。(RHR系の機器点検後は、RHR系を再起動する。)

実績は以下の通り。

1月17日午前9時41分～午前10時37分

・FPC系からRHR系非常時熱負荷モードに切り替え

・SFP水温度15.8(停止時15.1)

2月2日午後3時6分～午後3時32分

・RHR系非常時熱負荷モードからFPC系に切り替え

・SFP水温度17.3(停止時17.3)

1月22日午前9時44分～午前11時36分

・RHR系非常時熱負荷モード関連機器点検による冷却停止

・SFP水温度19.4(停止時19.2)

水処理装置および貯蔵設備の状況

[タンクパトロール結果]

現時点での特記事項なし

[H4、H6エリアタンクにおける水漏れに関するサンプリング結果]

現時点での特記事項なし

[地下貯水槽に関する水のサンプリング結果]

現時点での特記事項なし

[セシウム除去設備]

現時点での特記事項なし

[多核種除去設備(ALPS)]

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

・1月19日午前8時28分に「RO設備漏えい監視装置異常」警報が発生。
現場を確認したところ淡水化装置建屋内で、淡水化装置のRO膜洗浄用のタンクの空気抜き配管から漏えいしていることを確認。淡水化装置(RO-3)を同日午前8時50分に停止。タンクからの漏えいは、タンクにつながっている弁を閉操作し停止していること、ならびに堰内に留まっていることを確認。

漏えい範囲は、10m×15m×1mmであり、漏えいした水の量は、約150リットルと推定。

漏えいした水はRO膜の洗浄水で、漏えいした水の放射能分析結果は以下のとおり。

- ・セシウム-134: 3.2×10^2 Bq/l
- ・セシウム-137: 2.7×10^3 Bq/l
- ・全ベータ : 3.1×10^4 Bq/l

漏水した水は、同日午後1時20分に回収作業を完了。

今回の漏えいについては、当該タンクに接続してある常時閉の弁が開の状態であったため、本来流入しないRO濃縮水受タンクへ供給される水がタンク内に逆流。これにより、タンクは満水状態となり、空気抜き配管より水が漏えい。

なお、当該弁を本来の閉状態に戻したことにより、設備は通常の系統状態に復帰。

準備が整い次第、淡水化装置を再起動予定。

・1月25日午後7時6分頃、パトロール中の当社社員が、建屋内RO循環設備B系からRO膜などの目詰まりを抑制するために使用する薬剤(次亜塩素酸ソーダ)と思われる液体が漏えいしていることを発見。

・漏えい場所 次亜塩素酸ポンプ(B)出口配管接続部

・漏えい範囲 約1.0m×1.1m×深さ1cm

・漏えいの継続有無 なし(次亜塩素酸ポンプ(B)出口配管接続部を増し締めしたところ、午後7時50分に滴下が止まったことを確認)

・外部への影響 漏えいした液体は堰内に留まっている

当該液体は本来、強アルカリ性であるものの、その後pHを確認したところ、中性(pH6~7)を示したため、漏えいした液体の放射能濃度を分析。分析結果は以下のとおりで、放射能濃度は、過去のRO処理前の水と同等であると確認。

- ・セシウム134: 4.8×10^2 Bq/L
- ・セシウム137: 4.2×10^3 Bq/L
- ・全ベータ: 1.9×10^4 Bq/L

漏えい水はRO処理前の水が次亜塩素酸注入ラインへ逆流して、次亜塩素酸注入ポンプ(B)出口配管接続部から漏えいしたものと考えられる。準備が整い次第、漏えいした水の処理を実施。

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

・2月7日起動予定であった、第二セシウム吸着装置(SARRY)を起動したところ、電源異常が確認されたことから停止。もう一つの水処理装置であるセシウム吸着装置(KURION)について起動可能か調査したが、起動不可能であったことから、同日午前10時50分に当直長が水処理装置のすべてが運転できないと判断。その後現場を調査したところ、第二セシウム吸着装置の電源盤にある変圧器から火花・異音が確認され、変圧器の端子部に放電痕を確認。現在、電源は停止しており、火花・異音については止まっている。現場の状況について、富岡消防署へ説明を行ったところ、午後0時48分、「火災ではない」と判断された。第二セシウム吸着装置(SARRY)については、速やかに復旧する方法を検討中。なお、水処理装置(SARRY・KURION)は運転できない状態だが、滞留水の維持・管理にただちに影響をあたえるものではない。

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯水タンクG 1月2日午前10時7分~午後1時28分。排水量500m³
- ・一時貯水タンクA 1月3日午前9時48分~午後0時59分。排水量473m³
- ・一時貯水タンクB 1月4日午前10時38分~午後1時50分。排水量478m³
- ・一時貯水タンクC 1月5日午前10時12分~午後1時18分。排水量462m³
- ・一時貯水タンクD 1月6日午前10時5分~午後1時17分。排水量475m³
- ・一時貯水タンクE 1月7日午前9時29分~午後0時32分。排水量453m³
- ・一時貯水タンクF 1月8日午前10時~午後1時。排水量446m³
- ・一時貯水タンクG 1月10日午前10時5分~午後0時53分。排水量416m³
- ・一時貯水タンクA 1月12日午前11時14分~午後4時29分。排水量782m³
- ・一時貯水タンクC 1月14日午前10時19分~午後2時5分。排水量562m³
- ・一時貯水タンクE 1月16日午前10時6分~午後2時6分。排水量595m³
- ・一時貯水タンクF 1月17日午前10時~午後0時58分。排水量440m³
- ・一時貯水タンクG 1月18日午前11時4分~午後1時42分。排水量391m³
- ・一時貯水タンクA 1月19日午前10時9分~午後0時28分。排水量342m³
- ・一時貯水タンクB 1月20日午前10時25分~午後0時52分。排水量362m³
- ・一時貯水タンクC 1月21日午前9時49分~午前11時56分。排水量313m³
- ・一時貯水タンクD 1月22日午前10時4分~午後0時11分。排水量316m³
- ・一時貯水タンクE 1月23日午前10時1分~午後0時6分。排水量307m³
- ・一時貯水タンクF 1月24日午前9時56分~午前11時50分。排水量282m³
- ・一時貯水タンクG 1月25日午後0時4分~午後2時7分。排水量303m³
- ・一時貯水タンクA 1月26日午前10時10分~午後0時56分。排水量411m³
- ・一時貯水タンクB 1月28日午前10時16分~午後1時46分。排水量521m³
- ・一時貯水タンクC 1月29日午前10時19分~午後1時51分。排水量525m³
- ・一時貯水タンクD 1月30日午前10時11分~午後1時31分。排水量495m³

- ・一時貯水タンク E 1月31日午前10時2分～午後0時59分。排水量 437m³
- ・一時貯水タンク F 2月1日午前11時39分～午後2時34分。排水量 434m³
- ・一時貯水タンク F 2月2日午前9時55分～午後1時5分。排水量 471m³
- ・一時貯水タンク A 2月3日午前10時17分～午後1時47分。排水量 521 m³
- ・一時貯水タンク B 2月4日午前9時47分～午後0時58分。排水量 472 m³
- ・一時貯水タンク C 2月6日午前10時6分～午後1時17分。排水量 474 m³
- ・一時貯水タンク D 2月7日午前10時4分～午後0時43分。排水量 392 m³

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載

< 排水実績 >

- ・一時貯留タンクグループ 1 1月4日午前10時3分～午後6時4分。排水量 1,999m³
- ・一時貯留タンクグループ 3 1月12日午前10時10分～午後5時59分。排水量 1,979m³。
- ・一時貯留タンクグループ 2 1月18日午前10時7分～午後5時46分。排水量 1,941m³。
- ・一時貯留タンクグループ 1 1月25日午前10時3分～午後5時40分。排水量 1,868m³。
- ・一時貯留タンクグループ 3 2月1日午前9時50分～午後4時55分。排水量 1,784m³。

< 特記事項 >

現時点での特記事項なし

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

< 特記事項 >

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

< 特記事項 >

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

- ・1月8日午前11時46分頃 サブドレン前処理フィルタ1Aより水抜き中に、3Aドレンヘッダホース接続部より水が漏れていることを当社社員が発見。状況は以下のとおり。
 - ・発見時刻 午前11時46分頃
 - ・発生場所(設備名称) サブドレン浄化建屋
 - ・漏れ箇所 サブドレン前処理フィルタ3Aドレンヘッダホース接続部
 - ・発見者 当社社員

・漏れ範囲 約0.3m×0.15m×深さ2mm

・拡大防止処置 水抜きを中止した

・漏れ継続の有無 停止中

・外部への影響 漏れした水は堰内に留まっている

漏れした水のスミヤ測定及び表面線量率測定を行った結果、サブドレン浄化建屋内のバックグランドと同等であることを確認。また、漏れした水について、拭き取り処理を実施する。

【けが人・体調不良者等】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし